

## 大阪自治労連 第24回定期大会

9月9日・10日



大阪自治労連は9月9日から10日の2日間、大阪市中央区のシティプラザ大阪で第24回定期大会を開催しました。大会は、「東日本大震災の教訓から政治のあり方と人間らしい生き方を問う」、憲法がいきる地域と自治体をつくる」のスローガンをかけ、「働くルール」の確立、東大阪市長・大阪府知事・大阪市長選挙勝利、組織強化と拡大など「7つの柱」の運動方針を満場一致で採択。たたかいの先頭に立つ新役員を選出しました。

東日本大震災  
の教訓から

# 政治のあり方と 人間らしい生き方を問う

## 政治の流れを変えれば → 暮らしが変わる



弁護士  
梅田 章二さん

大阪府知事選挙 11月27日

真面目に働く自治体職員の仕事が、住民の幸せにつながるような自治体を作っていくチャンスです。橋下・維新の会のような“独裁”政治や国保の差し押さえを強化し、任期付き職員など自治体職員の非正規化をすすめる政治の流れをかえるために、全力をあげましょう。



前大阪府議会議員  
わたし考二さん

大阪市長選挙 11月27日



前東大阪市長  
長尾 淳二さん

東大阪市長選挙 10月2日



大阪市労組 青年部長

八尾 たかし 高志さん

被災地に行って  
仕事や生き方を考えた

「被災地はまるで戦争の空襲の跡みたいでした」。岩手県陸前高田市でボランティア活動に参加して、ガレキ撤去などで被

趣味は「飲み会」、プロ野球は大の広島ファン  
TシャツにはCarpの文字が

被災者の生活再建を支援。被災地の市職員労働組合の役員からも話を聞くことができました。「たくさんの職員が亡くなり、生き残った職員も大変な業務に追われていました。『最初はがむしゃらに仕事をしていましたが、職場は限界。労働組合として労働条件の問題にもしっかり取り組みたい』と話されていたのが印象的でした」  
30歳を迎えた年に遭遇した大震災。「非常時に自治体労働者としてどう動くのか、仕事や生き方を考える機会になりました」



青年部で、被災地へボランティア支援(左が八尾さん)

た。自分の人生の節目にもなったような気がします」

生活保護の職場から

「おもとを変えなければ」

仕事は6年前からケースワーカーを担当しています。リーマンショック、派遣村、貧困ビジネスなど、生活保護が社会的にも大きくクローズアップされ、受給者は増大し続けてきました。「働きたい意思があるのに働けない人、特に若年層が増えている。先進国日本で、なんでこんなことになるのか? 社会のおもとを変えなければ」

任期付職員など不安定雇用のケースワーカーが増え、十分な研修や引き継ぎのないまま仕事をしている職員も少なくありません。「ケースワーカーは経験が必要。生活保護制度だけでなく、税金や介護、健保、年金など他の制度にも精通していなければできない仕事です。職場のみんなも本当は『しっかりとした仕事をしたい』という思いを

持っています。住民のために仕事を改善したい要求があれば、何でも言える職場にしていきたいです」

楽しく、人が集まる  
組合活動に

大阪市労組との出会いは、就職して2年目の頃に誘われた青年部交流会から。それまでは他の組合に属していたのですが、本当の労働組合活動とは何なのか、疑問を感じていました。「組合は本来『頼れる存在』であるはず。自治労連の市労組には、それがあつたんです」と、市労組に加入した動機を語ります。

これまで大阪自治労連青年部長を務め、7月からは大阪市労組書記次長に就任。「イヤイヤではなく、自分の要求でやるのが労働組合。楽しく人が集まる交流の場もつくて、いっしょに活動できる仲間を増やしていきたいですね」と、笑顔で決意を語ってくれました。

# 自治労連の組合は「頼れる存在」 いっしょに活動できる仲間を増やしたい